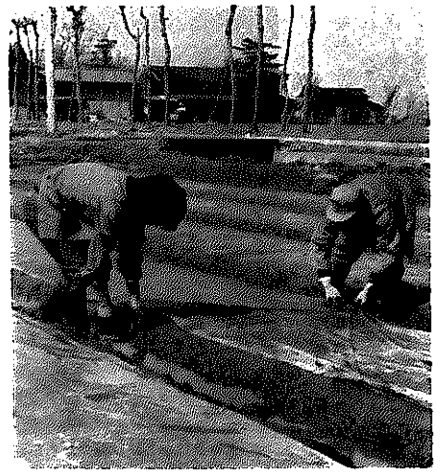
48年の米の作柄　反収は県下の10位
市では史上3番目の豊作

そよ吹く風もさわやかに、野も山も緑一色に染めあげられ、日の光もまぶしい五月……。今年も〝うまい米〟の量産をめざして農作業が始まり、農家にとっては忙しい季節になりました。
昨年の作柄は、①日照が続いた②水の管理がよかった③生産意欲の向上などで、総生産量二万五千四百トン。市では史上三番目の豊作を記録しました。

総生産量二万五千トン

市内の農家戸数は二千七百三十六戸。そのうち米穀売り渡し農家は二千五百八十戸。
米穀売り渡し農家一戸当りの水田耕作面積は一・七㌶。県下でも大規模経営層に位置づけられています。
しかし、土地の生産性は年々低下しています。
昨年、西蒲原郡では十アール当りの平均収量が五百七十三㌔で、本市は五百六十七㌔で、県下の反収では第十位と落ちこんでいます。
この原因は⑴多種品種から良質品種への転換期⑵兼業農家の増加による、経営の粗放化⑶生わら散布の影響などが上げられます。
とくに、生わらの水田還元は、排水の悪い水田では全量施用は有効でなく、地力的肥効の立場からは、完熟のたい肥の施用が最も望ましい方法です。
現実にこうした技術を守っている農家は、高い収量を上げています。
今後は、これらの点に注意しながら、土地生産性の向上と良質米の生産基地としての体制づくりが急がれます。



▲春たけなわ／豊作を祈って苗代づくり

四等米が過半数

等級別出荷状況は、四等米が総出荷量（三十五万九千俵）の五十七・四％を占め、続いて三等米の三十六・二％、五等米が五・二％、二等米は〇・二％、規格外が〇・一％になっています。
一般的にいわれる上位等級米（三等以上）の出荷率は、過去で最高だった四十七年の四十・一％より低く、逆に下位等級米（四等以下）が過半数を占めています。
苦労して育てた稲です。商品化する段階で、もう少し注意すれば、下位等級米の増加は防ぐことができます。

米づくり　努力が実り表彰

三月三十日産業厚生会館で行なわれた、うまい米量産推進大会で、四十八年度の良質米多収農家などが表彰されました。個人、団体の受賞者は次のとおりです。（一位のみ）
▽個人の部　①赤塚憲一（下吉上＝写真）
▽団体の部　①蔵主農事研究会A
▽地区賞　新飯田＝赤塚憲一（下吉上）　茨曽根＝関根文雄（九蔵）　庄瀬＝狩谷十代典（沖新保）　白根＝清水茂幸（鯰潟）　小林＝武田繁（蔵主）　臼井＝中村光一（中山）　大郷＝中野孝治（下大郷一）　鷲巻＝渡辺靖誠（西笠巻二）　根岸＝大橋由和（上塩俵）

高い銘柄品種の出荷率

昨年は、わせ種の越路、ホウネンなどが品質もよく、収量も高くなっています。
コシヒカリや越みのり、千秋楽などの、なかて・おくて種は九月中旬の降雨の影響を受けて稲の倒れや穂発芽などで収量、品質ともに低下しました。
品種別の上位等級率は、越路わせの六十八・五％を最高に、ホウネンワセが五十五・八％、コシヒカリ四十七・九％、越みのり三十二・七％で、銘柄四品種平均が五十六・二％。
他の品種の二十四・七％の二倍以上の出荷率を示めしています。

良質米生産基地としての確立を

〝うまい米づくり運動〟も今年で五年目を迎えます。
農業をとりまく環境はきびしく、農家にとっては試練の連続です。
本市の基幹産業を守るには、生産原価を安く押え、良質安定多収稲作をめざし、良質米生産基地として進んでいかなければなりません。
さいわいに、米価上昇ムードの中、世界的にも食糧不足が叫ばれ、国際農作物が高騰し、農業も好転のきざしをみせています。
この機会に、もう一度〝農業〟を考え、「魅力ある農業」へ、脱皮する時期にきているようです。

農業委員会　会長に田中清さん

三月三十日で、任期満了となった農業委員会の委員が決まりました。なお、会長には田中清さん（写真）が、会長代理に小池小栄太さんがそれぞれ再選されました。
各部会長には、農地部会が赤塚寅吉さん、農政農業振興部会は高橋秋衛さんが選ばれました。
各地区の委員は次のとおりです。
▽新飯田＝赤塚寅吉、塩原寅松、石黒吉太郎。▽茨曽根＝五十嵐信男、仲野芳太郎。▽庄瀬＝川又二三郎、近藤弘、相馬鉄志、中山勘一　▽小林＝細貝一雄、小田喜好、諏訪間信男。▽白根＝岡田功、厳長平　▽臼井＝斉藤保栄、高橋秋衛、羽入藤久司。▽大郷＝小柳勇一、小池小栄太、石山守時。▽鷲巻＝丸山二一郎、品田俊夫、吉田今朝男、丸山俊一郎、石塚吉太郎。▽根岸＝田中清、渋谷忠二、長谷川清、高橋新作、高橋亘。

年間6万円を支給
身体障害者2級の人に

障害年金の支給範囲が広げられました。
二級障害者も、四月から月五千円もらわれます。
次に該当する人は、市民課年金係へ、申し込んでください。
▽二十歳以前に医師から身体障害者の認定を受けた人。
▽昭和三十六年四月一日以前に身体障害者になった人。
▽六十三歳から七十歳未満の身体障害者で、老齢福祉年金（老齢特別給付金）をもらっていない人。

二級障害者の程度は

▽両眼の視力の和が〇・〇五から〇・〇八までの人。▽両耳の聴力が八十デシベル以上の人。▽平衡機能に著しい障害のある人。▽流動食しか食べられない人や口からこぼれるため手か器物で防がなければ食べれない人。▽片手の指を全部切り落した人や両手の親指と人さし指、親指と中指を切り落した人（これらが完全マヒか完全硬直などでほとんど使うことのできない人）▽片腕、片足が完全マヒか完全硬直でほとんど使えない人。▽両足の全部の指か、片足を足首から上で切り落した人。
▽背骨などの障害で、屋外ではつえなどの補助用具を使わなければ歩けない人。▽からだの機能障害か長期安静が必要な人で、日常生活がきわめて困難なため労働によって収入を得ることができない人。
▽精神障害者で、入院させる必要はないが、日常生活ができない人（精神薄弱児は痴愚程度の人）▽ことばだけでは話を伝えることができないので、身ぶりや書くことによって、はじめて話を伝えることのできる人。
以上が二級障害者の認定条件のあらましです。

市立図書館　読書は最良の友です
利用者もグーンとふえています

激動する社会、じっくりと考え、創造する人間になることが大切です。
鳥が、花が、木々の梢が、生きているよろこびをうたう季節日々の手ごたえをずっしりと感じる春。『読書は最良の友』といわれます。
『市民の図書館』として、親しまれている市立図書館（関根慶吉館長）では、年々利用者がふえ、昨年四月から今年三月までの一年間、二万一千四百冊を貸し出すという盛況さです。
前年度の同期と比較してみますと、約二千五百冊も多く、一日貸し出し冊数は七十三冊にのぼります。
利用者別では、一般の人がやや減少したのに対し、学生がふえ、なかでも小学生の利用がグンと多くなっています。
これは、図書館が『幼児のころから読書に親しもう……』という運動のあらわれとか。
利用図書を分類別にみますと文学書が七十六％で一万六千冊でトップ。次に自然科学書、歴史書、社会科学書となっています。新しい傾向として、文学書の全集を読む人がふえていることです。
図書館では、自動車文庫も活発に進めており、月一回市内六か所にステーションを設け、本の貸し出しを行なっているほか職場や団体、家庭などグループごとに貸し出すなど、意欲的に取り組んでいます。
〝読書の秋〟といわれ、読書は秋にするなどの時代から、四季をとわず読書を親しむ昨今、市立図書館が市民の図書館として、親しまれ多いに利用されることは、大変よいことです。
図書館では、火、金曜日は夜八時まで開館しています。
ぜひ一度、あなたもおとずれてみてはいかがでしょうか。

新飯田保育園　定員が九十人に

▲新しい保育室で給食です。もみじ組のよい子は大はしゃぎ。

昨年の十二月から工費二百十五万六千円で進められてきた、新飯田保育園の増築工事が、このほど終わりました。
新たに完成した三十三平方mのかわいい保育室の収容人員は三十人です。
これにより、新飯田保育園の定員数は従来の六十人から九十人にふえ、新入所の園児たちには、すばらしい贈り物となりました。
また、昭和三十九年に設置された古川保育園は、いままで未公認保育所として運営されてきましたが、県の指導や将来、施設を拡充する計画もあり、公認保育所に指定。定員数も五十人から六十人に広げられました。
これで本市の公認保育所は、十二所となりました。

便利な〝凧見橋〟　うれしい完成です

▲歩行者専用の〝凧見橋〟安心して渡れます。

一の町と対岸の西白根を結び味方村との経済流通と電鉄を利用する人たちに、かくことのできなかった旧富月橋。
その橋も、昨年の十月に姿を消し、新しく〝凧見橋〟と名付けられた歩行者専用の歩道橋が誕生しました。
凧見橋のとり付け位置は旧富月橋より約七十m下流。長さ八十二m、幅は五mの永久橋です。
軽自動車以上の車両の通行はできませんので注意してください。

5月のスポーツ

フォークダンス教室　毎週木曜日　午後7時30分から
ママさんスポーツ教室　毎週火曜日　午前9時30分から
◇ところ　青年教育センター

人の和をモットー東京白根会　ふる里の発展に期待

▲楽しい総会、お国なまりも飛びだし、ふる里の思い出話がいっぱいです。

互いに手をとり、結びあい、人の和をモットーに、郷土出身の人たちで作られている東京白根会。第十一回総会が、東京渋谷・万葉会館で、盛大に開かれました。
当日、郷里からは吉沢市長、川田市議会議長、須田凧合戦協会長らが出席。吉沢市長はユーモアたっぷりに、日ごろの協力のお礼と、激励のことばがのべられました。
総会後、星野白鴎さんや子スズメ会の皆さんにより民謡のかずかずが披露。
懇親会では、老人福祉センターの完成、児童公園の着工、新中学校の建設、戸頭新浄水場の完成など、住みよい町づくりが、着々進められている郷里の姿に、会員は心強さを感じ、今後の躍進に大きな期待を寄せていました。
日と共に変容する郷土…ふる里に育ち、はぐくまれた幼い頃の思い出話に花が咲き、笑いでうずまく楽しい一日でした。
役員は次のとおりです。
名誉会長　加藤清二郎
会長　高木一郎
副会長　田村晃一、小林清二、大橋伊三郎、高井猛七郎
相談役　飯田政石
幹事長　阿部徳治
事務局長　庭山仁爾

遺族が「慰霊碑」を建立

発起人の東樹友次さん（住吉町）、建設委員長の佐々木平太郎さん（葵町）や遺族の努力で、上八枚の即成寺に「海外殉難者之慰霊碑（写真）」が建立されました。
東樹さんは、終戦直後の満州で、同胞が次々となくなっていく悲惨な情景を目のあたりにし、供養碑建立のためかって満州で生活した市内の各家庭を訪れ、趣旨を説明し協力を求めました。その熱意が実りりっぱな石碑が完成したものです。

西方さん、防犯灯を寄付

暗い夜道を明るくし、安心して通れるようにと、西方伍郎さん（五六＝東京）が、防犯灯十一灯を寄付されました。
市防犯協会では、舟江町通りに設置。自動点滅装置をもつ同防犯灯は、夜道を明るく照らし通る皆さんによろこばれています。
市防犯協会から西方さんに感謝状が贈られました。
ご寄付ありがとうございました。